躍動感，わくわく感

田 中 秀 雄*

長年，成形加工学会年次大会に参加していますが，昔はOHPフィルムにコピーした内容をプロジェクタで映すというやり方で，今のようにPCを駆使して表現ができる時代とは異なり，簡単に修正ができないため発表前日まで大変苦労されたと聞いております。

現象を深く掘りさげる，分析に論理的な齟齬が無いことを十分考察する，様々な仮説に基づく分析など，拝聴していても苦労がわかる内容が多かった。

また，企業の若手を中心とし，とにかく何かのヒントを得たいという会場は大変な熱気と躍動感にあふれていたし，聞きたい講演が重なってしまうこともたびたびあったと記憶しております。

可視化技術もまだ十分でない時代は，プラスチックの技術屋が，何かヒントを得たいという思いから成形加工学会年次大会に熱い視線をおくり，ある意味では，新しいプラスチックの技術を切り拓く何らかの力になってきたと思っております。

最近では，解析技術，センサー技術，可視化技術もどんどん進み，見えないものが見えてくる，細部にわたるセンシング，CTによる3次元分析など，感動的な画像やデータが目飛び込んでくる。今まで，考えていたことが覆されたり，やはりと納得したり，確かに興味深い。ますます違う視点で見たい，違う答えに出会う可能性も感じます。

企業からの発表が少ないと感ますが，やはりグローバル競争の時代であり，差別化技術開発は必須であり，開示したくない技術はなかなか企業からの発表が難しくなっているためと推察している。日本のプラスチック業界が厳しい状況になりつつあるとすれば，技術の低迷も原因の一つであり，これを突き破り新しい次の時代むかうためには，成形加工学会でヒントが得られるという開発の原動力に期待するとともに技術躍動感を共有化したいと感じた年次大会でした。

* Tanaka, Hideo

米国プラスチック国際展示会 NPE 2015 日本代表
三島市加茂 49-3 (〒411-0023)